

2017-2018

Weekly Bulletin of KAKOGAWA CHUO R.C.

- R.I.会長／イアン・H.S.ライズリー ● 地区ガバナー／瀧川 好庸
 - 会長／大西 淳滋郎 ● 幹事／井上 孝明 ● クラブ会報委員長／宮本 鹿司夫
 - 事務局／〒675-0064 加古川市加古川町溝之口 800 番地 加古川商工会議所会 5F
- TEL 079-421-5152 FAX 079-421-5559 E-mail info@kakogawa-chuo-rotary.club



ロータリー：
変化をもたらす

第 2114 号

平成 30 年 2 月 1 日 (木) No 26

ゲスト卓話：石井 良昌氏



★ 会長挨拶



★ パストガバナー 石井 良昌氏



★ 2 月皆勤表彰、
入会後 3 カ月 ALL 皆勤表彰

会長あいさつ

大西 淳滋郎

皆さん こんにちは。本日は 国際奉仕委員会が石井パストガバナーをお招きしております。石井パストガバナー、本日はご指導宜しくお願ひ致します。さて、今月は平和と紛争予防/紛争解決月間です。どうすれば、紛争が予防でき解決するのか、私も難しいことは分かりません。私が理解している平和の『和』という言葉ですが、和するということは無理に併せるのではなく、お互いを認め合うことだと思っています。国同士でも家庭内でも同じですね。ところで、先日大相撲で栃ノ心が優勝致しました。ジョージア出身というので、てっきりアメリカのジョージア州出身かと思えば、旧名がグルジアのジョージア出身だったのですね。グルジアの紛争は根が深く、まだまだ続きそうに感じております。また、紛争を回避するには、どんな心構えがいるかと考えますと、私は『紅蓮たれ』と言う言葉を思い浮かべます。吉川英治著「宮本武蔵」に登場する言葉で、決闘場へ行く時に、気持ちは紅蓮の炎ながら燃え上がるが、頭は冷静で、外面からは内面が見抜かれぬ姿勢という意味です。なかなか難しい心理状態です。同じような言葉を、日本人女性で初めてのロータ

リー財団奨学生であり、国連難民高等弁務官だった緒方貞子さんの言葉に「熱い心と 冷たい頭を持つ」という言葉があります。物事に当たるには、熱い気持ちと冷静さが必要だと言うことでしよう。反対のかたち、頭がかつかして心冷ややかにならないように私も気を付けたいと思っております。

少し、紛争とは違いますが、平和の祭典、オリンピックの逸話をご紹介致します。1984年のロサンゼルスオリンピック、柔道無差別級決勝、日本の山下泰裕とエジプトのモハメド・ラシュワンの戦いです。その決勝では、王者山下は右足が使えないなかで戦っていました。軸足の右は肉離れがひどく、相手を投げることなど到底できない状態でした。そんな状態を知っているながら、なぜ挑戦者ラシュワンは山下の右を攻め続けなかったのか。何故右足を攻めなかったのかという質問にラシュワンは、こう語っています。「それは私の信念に反する。そんなにまでして勝ちたくなかった。ヤマシタが右足を痛めていることは分かっていた。だからこそボクは右足を攻撃しなかった。それにヤマシタが強かったから、自分は負けたのだ。」 大和魂的スポーツマンシップを外国人から学んだ瞬間でした。ピョンチャンでも日本人選手の正々堂々とした姿勢を期待しております。会長の時間を終わります。